

事業所名

児童発達支援 ひなたぼっこ

## 支援プログラム

作成日

2026年

1月

28日

法人（事業所）理念	法人理念【ひとりひとりが主人公】 事業所理念【社会へ出るために今できること】							
支援方針	“子ども社会”や“子ども同士”の関りを大切にしております。可能な範囲で職員の介入は少なくし、子ども同士で解決できるように支援しております。子ども社会で身に着けた社会性や生活スキルを、成長した将来に繋げていけたら理想です。ご家族と協力しながら、お子さんの成長と一緒に見守ってきたいと考えております。							
営業時間 サービス提供時間	営業時間	8時	30分から	17時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
	提供時間	9時	00分から	13時	00分まで			
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	毎回利用時に、検温を行い体調管理に対しての意識付けを行っている。そのときに、支援者から声掛けを行いそれぞれの心理的状态（気分や機嫌）を把握する。来所時や退所時の挨拶を行い、コミュニケーションの基盤を構築していく。生活リズムの形成を目的として、「1コマ45分」を設定し、生活の中でメリハリのある活動を意識して行えるようにする。お子さんの成長スピードに合わせてトイレトレーニングや、食事の様子、掃除など、基本的な生活スキルをご家族と相談しながら一緒に検討し身に着けていけるように支援する。						
	運動・感覚	室内では、マットレスやバランスボールで姿勢の保持や体幹の強化など、身体機能の強化を目的とした活動を遊びの中に取り入れている。プットインやボタンを付ける活動（課題）など、微細運動を目的とした活動もお子さんの様子を見ながら提供している。屋外では、近くの町営グラウンドへ出かけて、全身を大きく使った運動（野球、サッカー、バスケ、おにごっこ、かくれんぼ、土手のぼり等…）を行い、基礎体力の向上を目的として活動する。						
	認知・行動	“自ら感じ、行動してもらおう”を、それぞれのお子さんが興味を持てるような働きかけを実施。小学校へ入学後、自ら行動できるようになるには、どのような働きかけが支援者に必要なのかを検討していく。その中でも、難しい所や苦手な部分についてはご家族と一緒に検討していきたいと考えている。自発的に行動できるところは強化していき強みとして伸ばしていきたいと考えて支援している。						
	言語 コミュニケーション	“子ども同士”のコミュニケーションを大切にしている。そのために、安心して家族以外の人と関われる土台づくりを支援者から働きかけていき体験してもらおう。いろいろな刺激（運動や感覚）から得られる感情をそれぞれの表現方法で表出できるタイミングを大切にしている。発語がなく悩まれているご家庭については、言語聴覚士などを紹介するなどアウトプットも行い、お子さんにとって最善の方法を事業所として模索しながら支援していく。その中でも、事業所独自のコミュニケーションツールをご家族と一緒に広げていけるように支援していく。						
	人間関係 社会性	“個人”よりも“集団”を意識しており、まずは、だれか一人が何かを始めたら、そこに他の人も一緒になって活動できるように働きかける。また、その時の相手の反応や様子にまで思いを馳せられるように声掛けをしている。“ルールを理解し守る”事が出来るように、デジタル機器類も必要に応じてルールを設けて導入している。地域のイベントへの参加を積極的にいき、 “地域社会” を身近に感じてもらえるようにしている。						
家族支援	家族通園を基本とさせていただき、お子さんの様子をご家族と支援者が一緒に見守りその様子から家庭の様子などの共有も行っていく。必要に応じて支援会議の実施や、事業所の提案などもさせていただく。	移行支援	ライフステージが切り替わるタイミングの前に、どんな生活や資源があるのかをご家族と相談している。“生まれ育った地元”を大切にできるように支援している。					
地域支援・地域連携	“生まれ育った地元”での受け入れが可能となるような枠組みが整えられるように、関係機関との情報共有や連携を深めている。定期的な保育所訪問を実施し、地域や地元の保育士さんとの連携も大切にしている。		職員の質の向上	自立支援協議会（こども部会）への参加。報告子ども達の支援に繋がるような外部研修には積極的に参加。職員間での“支援会議”を毎週行っている。				
主な行事等	夏祭り、法人のお祭り（ひだまり祭）、季節を感じられる活動を随時行っている。（花見、プール、川遊び、焼き芋、クリスマス、大掃除、ひな祭りなど）							